

ひふのクリニック チャンネル

皮膚は内臓の鏡 —デルマドローム(Dermadrome)—

第 82 話【皮膚は内臓の鏡②】おへそのしこり〇〇〇かも！？写真で解説します

※YouTube では不合理な理由でバンされた画像もぼかしなしで載せます。

★Sister Joseph の結節

へそを見てがんが発見されることがあります。これを見つけた看護師さんの栄誉をたたえてシスター ジョセフの結節と名付けられています。昔は修道女が看護師をしていることが多かったのです。



- St.Mary 病院の主任看護師であった Mary Joseph は、臍部に腫瘍を持つ患者は開腹手術で悪性腫瘍が見いだされる、ということを経験的に知り、外科医の William J. Mayo がこのことを学会で報告し、1949 年に Bailey が命名した。
- この結節は内臓癌の臍転移であり、癌末期の症状で予後は 1 年未満と不良である。
- その頻度は 0.05~0.2%とまれで、統計的に胃癌、膵癌、卵巣癌、大腸癌が多い。
- 癌年齢のものでへそ内部に暗赤色から茶褐色の自覚症状に乏しい球形腫瘍を訴えてきた場合、まず本症を考える。
- 既に内蔵癌が発見されている場合も多いが、全く気づかれていない例もある。
- 進行癌が多いので、各癌腫に応じた腫瘍マーカーが高値を示す。
- 画像診断などで原発巣の確定とステージ分類する。
- 通常、癌末期であり、全身に転移をしていることが多く、予後不良のため、臍部への積極的な治療は行われない。

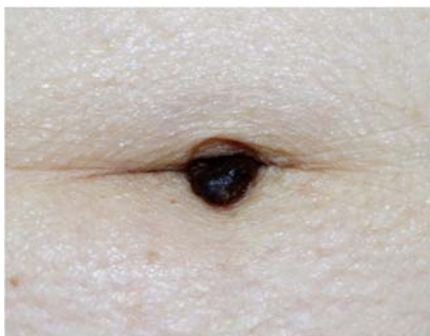
これ以外にもデルマドロームではないがへそにできる病気が色々ありますので以下にご紹介します。

★へその病気

- Sister Joseph の結節
- へそのゴマ(臍石):角質が堆積
- 粉瘤:急性に発赤腫脹
- 尿管管遺残の細菌感染
- 異所性子宮内膜症:月経周期に伴って出血
- 内視鏡手術によるケロイド
- 脂漏性角化症
- メラノーマ
- へそヘルニア

※しこりの下の病変に注意

★へそのゴマ(臍石)



へそのゴマはいじっちゃいけないと言われていますが、確かにへその奥はすぐに腹膜なので、いじっているとお腹が痛くなることはあります。しかし、長年そのままにしておくと、貯まりにたまって大きな黒い塊になることもあります。それを臍石(さいせき)と呼びます。

★炎症を起こしたへそのゴマ(臍石)



大きいへそのゴマ(臍石)をいじると、時にばい菌が入って化膿します。臍の周囲が赤く腫れて、痛くなり、臭いにおいを発します。オリーブ油を臍に垂らして、少しずつも見ながらピンセットでへそのゴマを抜き出します。抗生物質の内服・外用で治ります。

★炎症を起こしたへそ



へそのゴマは小さくなくても、へそをいじってばい菌が入って化膿することもあります。へそのひだが赤く腫れ上がって痛くなります。やはり、おばあちゃんの言いつけは守った方がいいかも。

★へその粉瘤



院長が考案して、いまや粉瘤(アテローム)の手術法のデファクトスタンダードとして知られている、くり抜き法はへそ抜き法とも呼ばれます。しこりの頂点の毛穴部分を抜くことで名づけられましたが、「雷療法」と呼んだことも過去にはありました。へそを取っちゃうのでそう名付けましたが、あまりはやらなかったですね。この事例は本当のへそ抜きですね。

★尿膜管遺残の化膿



尿膜管というのは胎児がお母さんの子宮の中にいる時に、尿を母さん側に排泄するための管で、臍の動静脈と並んでへその緒の中にありますが、出産前には閉じてしまいます。しかし、時にはへその緒を切ってもへその中に管が残っていて(尿膜管遺残)、後になってそこにばい菌が入って腫れることがあります。エコー検査などの画像診断をして、泌尿器科で摘出手術します。

★無色素性メラノーマ



メラノーマ(黒色腫)は、黒子のがんともいわれ、転移が早く、診断が遅れると命に関わるが多いため、恐れられている皮膚がんです。しかし、時にはメラニン色素を作らず、黒くない赤い塊として現れるので肉眼診断が難しいことがあります。この事例はまた稀なことにへそに発生した無色素性メラノーマです。病理診断後手術しました。

★異所性子宮内膜症



子宮内膜症は比較的多い疾患ですが、時に子宮外に発生することがあります。まれにへそに出ることもあります。月経

に一致してじくじくしたり出血します。病理診断後手術をします。

★臍ヘルニア



いわゆる出べそです。お腹に力を入れると、腹壁の弱い部分から腸が突き出してきます。これを粉瘤と誤診して切開すると大変なことになりますので、先ず押してみても一時的にも引っ込んでいけばヘルニアを考え、エコー検査など画像診断します。

★まとめ：へそのしこり

- 急性か慢性か、反復性か？
- 多いのはへそのゴマの細菌感染
- 安易に切開をしない。
- 迷ったら画像診断を行う。
- 確定診断は慎重に生検を行う。
- 化膿性のものであれば抗生剤服用
- 心配なものがありましたら、先ず皮膚科でご相談ください